

ムレ苗の発生に注意

令和8(2026)年 3月18日
上都賀農業振興事務所

播種後、寒暖の差が激しいときはムレ苗の発生が懸念されます。ハウス内の温度管理に注意してください。

○ムレ苗とは

ムレ苗は人間の風邪のようなものです。低温が続いた後、高温になると体が弱っているため、ピシウム菌に感染しやすくなりムレ苗となります。写真の様に苗がリング状又は、坪枯れ状に萎凋する病害です。



発生してしまうとなかなか有効な対策はありません。そのため、症状が広がらないうちに発見することが大切です。朝、苗の先端に水滴がついていないような時にはムレ苗が疑われます。

○ムレ苗防止のポイント

① 灌水

灌水を頻繁に行い過湿状態のまま天候が悪くなると、根の周りの温度が低くなりやすく、根が弱る原因になります。このような状態になるのを避けるためにも、**かん水量は控えめ**にしましょう。灌水量の目安は、**早朝又は午前中にかん水**を行い、**夕方には箱の縁が乾く程度**です。

② 換気

ムレ苗は上記の過湿、低温により根が弱った状態の苗が高温を受けることで発生します。**育苗中は、極端な低温、高温にならないような管理**を行きましょう。

目安温度(苗のすぐ上の温度)

	出芽期～4日	第1葉展開以降
日中温度	25～20℃	日中はできるだけ低く。(22～18℃) ※最高を25℃以上にしない。
夜間温度	15～10℃	夜間はできるだけ高く。(10～5℃)

○発生した場合の対策

① 遮光、プール状態

寒冷紗などで遮光して直射日光を防ぎ、急激な気温の上昇を防止します。その上で、ビニールプールを作って苗箱を水に浸しておくことで苗の保持にはある程度の効果があります

② 早期移植

上記①のような方法をとれば病害の進行、拡大を抑制できます。しかし、完全に抑制することは難しいため、発生が軽微な箱はできるだけ早く本田に移植することが重要です。

なお、葉が展開しないものは移植しても回復しないので、播き直し又は苗の購入で対応することが必要となります。

③ 薬剤の土壌かん注(拡大予防)

発生が軽度の場合、タチガレエースM液剤やナエファインフロアブルを土壌かん注し、様子を見ます。(使用基準は守ってお使いください。)